ハウス（にら）における土壌物理性を改善

活動対象：知内町ニラ生産組合

道南農業試験場からの技術支援を受け、土壌物理性の改善手法を習得し、現地で実証を行った。

1　課題の背景

経年により、にらの生育が不安定となり、収量・品質に影響を与えている。
収量・品質に影響を与える要因の一つとして、土壌物理性（土壌が固く締まっている）が挙げられる。
そのため、ハウスほ場の土壌物理性を改善する手法が求められている。

2　活動の経過

（地独）道総研道南農業試験場の支援を受け、次の活動を行った。

①土壌物理性改善の技術習得
・無反転で土壌全層を破砕することにより物理性を改善する機材「パラソイラ」について、効果や手法を習得。
②改善技術の実証と効果の確認
・土壌が固く締まっているほ場にて、試験場の協力によりパラソイラを施工。
・貫入式土壌硬度計を用いてパラソイラ施工前後の土壌硬度を調査し、改善効果を確認。

写真1　調査の様子
左：安藤普指
右：乙部主任主査

写真2　パラソイラ施工
機材は試験場より借用

3　活動の成果

改善技術（パラソイラの施工）により土壌の硬盤層が破壊され、物理性を改善することができた。

経年により踏み固められた、土壌の固い層をパラソイラで破壊。物理性の改善効果が見られた

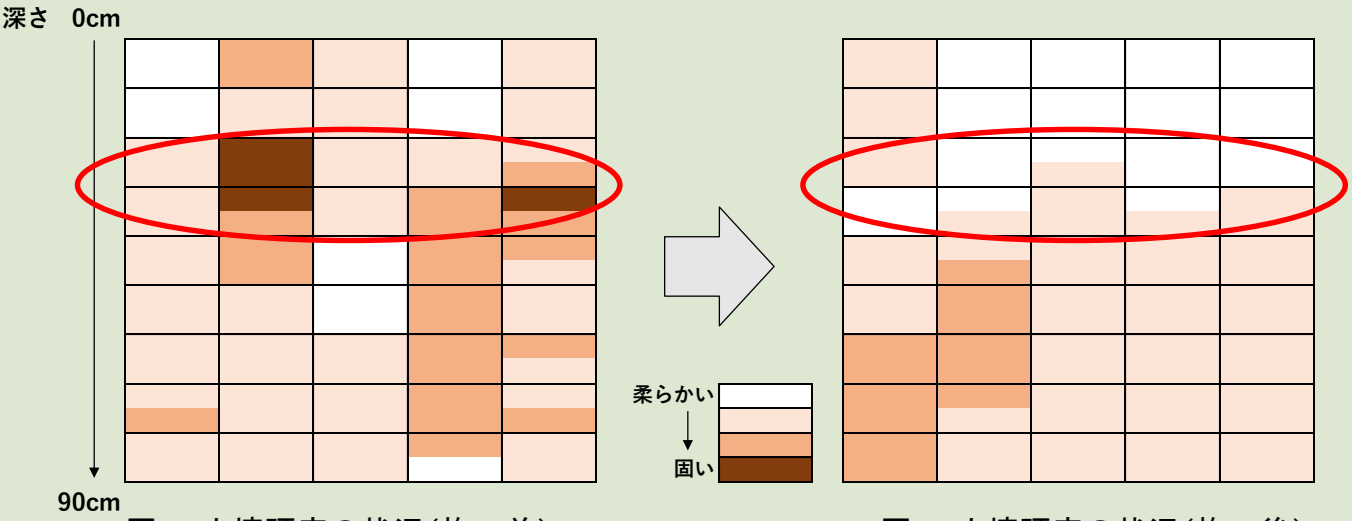

図1　土壌硬度の状況（施工前）

図2　土壌硬度の状況（施工後）

4　今後の課題

習得した技術を普及し、にらの安定生産につなげていく。

実証した農業者の声
「パラソイラを購入したよ」